

不条理

もう東日本の震災より、一年過ぎました。未だ復興・復旧もがれきなどの問題もありなかなかむずかしいところがあります。福島原発も何年かかることやら、メドがたちません。

この災害が起こったとき、なぜ「被災する」人と「被災をうけない」人が出来るのか、人間の不条理さを考えさせられました。それが「前世からの定めだったのだ」「人生は無常だ」、では「天罰だ」発言までいろいろな意見がありましようが、不条理としが言いようのないことです。あの災害の後「がんばろう日本」「犠牲になられた方に心より哀悼の意を表します」「被災された方にお見舞い申し上げます」「元気を与えるために何かしたい」「私はあなたと共にある」「被災者に寄り添う」と、多くの人々が声高々に宣言し、マスメディアもそれを喧伝します。そのことに異を唱えようものなら日本人でないような印象さえあります。しかしそこに言葉の持つ怪しさが感じられてならないのです。勿論、人々の善意は疑われないとして本当にこのことを「やり抜けるのか」思いますと、とてもとてもそのことをやり通せない「私」がいます。

無数の家や車が津波に流される映像を見るたびに、人間の無力さを思い知らされます。

映像には映らなくても、あの波の中におそらく飲み込まれていた人たちを想像しますと、何不条理なことを忘れていたのかもしれませんが。進歩とか成長とかを旗印に、何でもすべてを

人間の「思い通り」出来ると思っていたのだということを。お金と科学技術を使いながら追いかけてきました。便利さと楽をしようと、思い通りの世界を造ることが人間の共通目標としてきました。地震予知とか、想定内もすべて人間の思い通りの都合の良いように設定されたというのでしょうか。人間の設定した条件でしか成り立たない事を、設定した人も設定された方も忘れていたのです。想定外のことを考える事を止めていたのです。想定内で済めば災害は起

こらないはずなのです。人間が何でも思い通りにしようする心を仏教では「無明」と言います。

原発事故を起こした電力会社、推進してきた人たちの責任が問われています。周辺住民や避難

されている方々は被害者です。しかし同時に地元の人たちは原発の誘致によって補助金や雇用

で潤ったのも事実です。又造られた電力は首都圏のためのものです。その人たちも「思い通り

にしよう」「電力をよこせ」と願ったはずなのです。そのようなことに了解して出来たのが原発

ですから責任の一端は誰というより「人間」そのものの根幹にあると思います。この震災は人

間の思い通りに生きることの挫折を意味しています。視点を考える大切さを思います。

又、元の通りに復興すれば良いのか、原子力がだめなら風力、火力、太陽光、に転換して

ということ、やはり再び「人間の思い通り」にするつもりなのでしょう。問い直すはこの思

い通りにしようとする「無明」の心ではないでしょうか。進歩や成長を追うことを修正する

理念が大切なのです。「国難」とか「非常時」とか言われていますが「みんなが思い通りにする」

のではなく「節度とほどほど」が求められます。それは我慢などではなく自分の無力さを知る

ところから始まります。仏教の「人間の無明」が苦の原因ということはこのことを言っていま

す。それは被災を受けていない人たちが担っていくべきものでありましよう。